

言葉とその周辺をきわめる 3 (第4回)

「フィリピンの言葉は繰り返す」

長屋 尚典

0. はじめに

* 今日の担当教員

- 長屋 尚典 (ながや・なおのり)
- 専門: フィリピンとインドネシアのオーストロネシア諸語
- 授業: フィリピン語および言語学の授業を担当

* 言語名について:

- タガログ語 (Tagalog): マニラ首都圏およびその近郊で話されている地方語の名前
- フィリピノ語 (Filipino): フィリピン共和国の公用語としてのタガログ語の呼び名
- フィリピン語: フィリピノ語の東京外国語大学での呼び名
→ この授業では「タガログ語」と呼ぶことにする

* 今日はタガログ語の基本情報および文法的特徴を紹介します

1. フィリピン共和国とフィリピンの言語状況

* フィリピン共和国の基本データ

- 正式名称: Republika ng Pilipinas, Republic of the Philippines
- 首都: マニラ
- 地理: 7000を超える島からなる島国 (面積 299,404km²、世界第70位)
- 主な地方: Luzon: ルソン島; Manila が中心; タガログ語が話される; 政治の中心
Visayas: セブ島を中心とする諸島; Cebu が中心; セブアノ語話者が多い;
日本の企業や英語学校なども数多く存在する経済的にも発展した地域
Mindanao: ミンダナオ島と周辺の島々; Davao が中心; イスラム教徒が多い
- 人口: 約9,400万人 (世界12位)
- 国家元首: Benigno Simeon Cojuangco Aquino III 大統領
- 政治体制: 共和制 (国王がない)
- 通貨: フィリピン・ペソ (PHP)
- 時間帯: UTC +8 (DST なし)
→ 日本との時差1時間
- 宗教: キリスト教徒 90% (そのうちカトリックが80%)
イスラム教徒 5-10% (南部のミンダナオ島に多い)
→ ローマカトリックが多数を占める (アジアの国としては) 珍しい国
- 歴史: 独立までにスペインに約400年、アメリカに約40年、日本に約4年支配されていた
国名の「フィリピン」は16世紀のスペイン国王フェリペ2世にちなむ

* フィリピン共和国は多言語国家:

- 土着の言語が200近く話されている
- アメリカによって政治や教育のシステムが作られたので英語も話される
- 中国からの移民も多く Hokkien などの中国語諸方言も話される

* タガログ語はフィリピン共和国の公用語:

- タガログ語はスペインの植民地支配時代以来の政治の中心であったマニラで話されている
↳ 1987年憲法で制定

- ・ただし、タガログ語を母語としないフィリピンの人々のなかには「フィリピン語 = タガログ語」という事実を快く思わない人がいる (特にセブアノ語の話者)
- ・「フィリピン語 = タガログ語」という事実を消すために、フィリピンの土着の言語には存在しない [f] の音を採用して、Filipino と名付けられた (フィリピン諸語なら [pɪlipino] の方が自然)
- 英語は公用語として依然使われている:
 - ・ 科学用語・コンピューター用語は基本的に英語; 政治経済の用語も英語の場合がある; 新聞も同様
 - ・ 教育もタガログ語ではなく英語で行われることも珍しくない (学校による)
 - ・ 「フィリピンは英語だけで大丈夫」というのは (「生きていける」という意味では) 事実
- フィリピン人は3つの言語を話す:
 - ・ 現地語
 - ・ 公用語としてのフィリピン語
 - ・ 公用語としての英語

2. タガログ語のプロファイル

- * タガログ語はオーストロネシア語族西マラヨ=ポリネシア語派の言語
 - オーストロネシア語族は1200の言語を擁する世界最大の語族のひとつ
 - 北は台湾から南はニュージーランドまで、西はマダガスカルから東はイースター島まで
 - 伝播経路: 台湾 → フィリピン → 西インドネシア → 東インドネシア → ニューギニア → 太平洋の島々
 - したがって、インドネシア語・マレーシア語とは親戚関係にある (語彙を共有するが文法は似てない)
- * 文字はローマン・アルファベットを使用する
 - スペインとアメリカの植民地支配の影響
 - ただし、スペイン統治以前はインド系の文字 (Baybayin) を使用していた
- * フィリピンの複雑な歴史を反映してタガログ語の語彙にはいろいろな言葉の語彙が入り込んでいる
 - もともとのオーストロネシア系の語彙
 - マレー語を経由して流入したサンスクリット語系の語彙 (*mukha* 「顔」)
 - 中国人商人との商売を通して流入した中国語系の語彙 (*kuya* 「お兄さん」、*ate* 「お姉さん」)
 - スペインの植民地支配の結果としてのスペイン語系の語彙 (*siyempre* 「もちろん」)
 - 植民地時代以来の英語系の語彙 (*gr<um>aduate* 「卒業する」)
 - 日本語からの語彙 (*shabu* 「麻薬」)
- * 実際のタガログ語は英語をかなりまぜて使う:
 - 例えば:

So, nag-log-off ako sa Facebook.
so AF.RL-log.off 1SG.NOM LOC Facebook
だから、私はフェイスブックからログオフした。
 - 他にも:

Mag-boyfriend si Mike at si Joy.
each.other-boyfriend P.NOM Mike and P.NOM Joy
Mike と Joy は付き合っている。

3. タガログ語の音声の特徴

- * タガログ語の音声は非常に単純で簡単
 - タガログ語の子音: p, t, k, b, d, g, (ʔ) [ʔ], m, n, ŋ, ŋ, s, h, l, r, y [j], w, sy [ʃ], ts [tʃ], dy [dʒ]
 - タガログ語の母音: a, i, u (+ e, o)
 - 難しい発音や声調などはない
 - 日本語母語話者が気をつける事項: l と r、声門閉鎖音、子音で終わる音節、「ん」 ([n], [m], [ŋ]), [si], [u]

* ただし、(英語のように)強勢の位置で意味が変わることがある:

- gábi 「いも」 vs. gabí 「夜」
- hápon 「午後」 vs. hapón 「日本人、日本語、日本の」

* 実際に音を聞いてみよう!!

* 発音してみよう!!

- Magandang umaga! 「おはよう」
- Magandang tanghali! 「こんにちは」(正午ちかくに使う)
- Magandang hapon! 「こんにちは」
- Magandang gabi! 「こんばんは」
- Kumusta ka na? 「元気ですか?」
- Mabuti naman. 「元気です」

4. タガログ語の文法の特徴

* 略号についてはハンドアウトの最後の略号一覧を見てください。

* タガログ語の語順はVSOで動詞が最初にくる:

- 逆から読んでいくと日本語に簡単に訳せる:

Kumain ang bata ng adobo kagabi.
eat<AF> NOM child GEN adobo last.night
食べた が 子ども を アドボ 昨日

昨日アドボを子どもが食べた。

- 世界の言語を語順で分けると日本語のようなSOV言語(約40%)、英語のようなSVO言語(約40%)が多い
- タガログ語のような言語は珍しい(世界の言語の10%以下!!)

* タガログ語にはリンカーという不思議な要素がある:

- タガログ語にはリンカーという要素があり、いろいろなものを結びつける際につかう
- 名詞と形容詞(語順は自由):

masarap na pagkain
delicious LIN food
おいしい料理

- 名詞と関係節(語順は自由):

bahay na ipinaayos ni Tom
house LIN repair P.GEN Tom
Tomが修理した家

- 数字と名詞:

apat na aso
four LIN dog
4匹の犬

- 文の形をした主語とその述語:

Mahirap na matuto ng Tagalog.
difficult LIN learn GEN Tagalog
タガログ語を学ぶことは難しい。

* タガログ語には様々な種類の接辞が存在する:

- 接辞 (affix):

- ・ 接頭辞 (prefix): 語根の前につく接辞
- ・ 接中辞 (infix): 語根の中に割り込む接辞(珍しい)
- ・ 接尾辞 (suffix): 語根の後につく接辞
- ・ 接周辞 (circumfix): 語根を取り囲む接辞(珍しい)

- 接頭辞 maN-: 動詞を作る
maN- + isda 「魚」 → mangisda 「漁をする」
- 接中辞 <in>: 動詞の完了相を形成する
kain 「食べる」 + <in> → kinain 「食べた」
- 接尾辞 -an: 場所名詞を形成する
kain 「食べる」 + -an → kainan 「レストラン」
- 接周辞 ka- -an: 抽象名詞を作る
ka- + ganda 「美しい」 + -an → kagandahan 「美しさ」

* タガログ語は文法関係を表現するために名詞の前に冠詞みたいな標識をつかう:

- 主格 (NOM)、属格 (GEN)、場所格 (LOC) の3つしかない:

	NOM	GEN	LOC
普通名詞	ang	ng [naŋ]	sa
人名	si	ni	kay

- 人名とそうでない名詞では名詞の標識が異なっていることにも注目!!

* タガログ語は「私たち」に2種類ある:

- 包含形 (inclusive): 聞き手を含む「私たち」、例: tayo
- 排除形 (exclusive): 聞き手を含まない「私たち」、例: kami
- 例えば次のような場合に違いが大きく出る:

Filipino kami/tayo.
Filipino 1PL.EXC/1PL.INC
わたしたちはフィリピン人です。

* タガログ語動詞はテンス (時制) でなくアスペクト (相) で時間を表現する

- テンス: ある事態が過去のものか、現在のものか、未来のものか
- アスペクト: ある事態が完了しているのか、進行中のものなのか、まだ起きてないことなのか
- タガログ語はアスペクトは動詞の活用で表現するが、テンスは副詞で表現する:

・ 過去テンス + 進行アスペクト:

T<um>a-takbo ako kahapon.
ASP<AF>-run 1SG.NOM yesterday
私は昨日走っていた

・ 現在テンス + 進行アスペクト:

T<um>a-takbo ako ngayon.
ASP<AF>-run 1SG.NOM today
私は今走っている。

・ 未来テンス + 進行アスペクト:

T<um>a-takbo ako bukas.
ASP<AF>-run 1SG.NOM tomorrow
私は明日走っているだろう。

- アスペクトに関して非常に複雑な活用をみせる

BASIC	PERFECTIVE	PROSPECTIVE	IMPERFECTIVE
t<um>akbo	t<um>akbo	ta~takbo	t<um>a~takbo
mag-lakad	nag-lakad	mag-la~lakad	nag-la~lakad
ma-tulog	na-tulog	ma-tu~tulog	na-tu~tulog
bilh-in	b<in>ili	bi~bilh-in	b<in>i~bili

bigy-an	b<in>igy-an	bi~bigy-an	b<in>i-bigy-an
i-lagay	i-ni-lagay	i-la~lagay	i-ni-la~lagay

* タガログ語は意志的に行為を行ったかそうでないかで動詞の形を変える

- 英語で *I broke John's iPhone* と言うと意図的でも非意図的でもありうる
- タガログ語は意図性に敏感; 例えば *sira* 「壊す」という動詞語根は二つの表現が可能
- 意図的に起きた場合 (*s<in>ira*):

S<in>ira-ø ko ang iPhone ni John.
 <RL>break-PF 1SG.GEN NOM iPhone P.GEN John
 私はジョンのiPhoneを(意図的に)壊した。

- 非意図的に起きた場合 (*na-sira*):

Na-sira-ø ko ang iPhone ni John.
 ST.RL-break-PF 1SG.GEN NOM iPhone P.GEN John
 私はジョンのiPhoneを(意図せずに)壊してしまった。

* タガログ語には焦点という現象がある

- タガログ語には**焦点 (focus)** という現象がある
- 焦点: 主語 (主格 NOM で標示される名詞句) が何であるかによって動詞の形が変わる現象
- *kain* 「食べる」という動詞はなにを焦点にするかで4つの動詞の形を持つ:

a. 行為者を焦点にする:

K<um>ain **ako** ng mansanas.
 eat<AF> **1SG.NOM** GEN apple
 'I ate an apple/apples.'

b. 行為の対象を焦点にする:

K<in>ain-ø ko **ang mansanas.**
 eat<RL>-PF 1SG.GEN **NOM apple**
 'I ate the apple.'

c. 行為の場所を焦点にする:

K<in>ain-an ko **ang pinggan niya.**
 eat<RL>-LF 1SG.GEN **NOM plate 3SG.GEN**
 'I ate off of John Rey's plate.'

d. 行為の受益者を焦点にする:

I-k<in>ain ko **ang babae.**
 CF-eat<RL> 1SG.GEN **NOM woman**
 'I ate for **the woman.**'

- このような現象をもつのは世界の言語でもフィリピンの言語だけである

* この焦点という現象はいろいろな述語で使われる:

- 述語 *sarap* 「おいしい」も食べ物に焦点をあてるか食べる人に焦点をあてるかで述語の形が異なる:

a. 食べ物を焦点にする (ふつうの形容詞):

Ma-sarap ang pizza na ito.
 ADJ-delicious NOM pizza LIN this
 このピザはおいしい。

b. 食べる人を焦点にする:

Na-sa-sarap-an si Yucchi sa pizza na ito.
 RL.ST-ASP-delicious-LF P.NOM Yucchi LOC Pizza LIN this
 ゆっちはこのピザをおいしいと感じている。

- タガログ語では何を主語にするか常に考えながらしゃべらなくてはならない (解釈しなくてはならない)

5. フィリピンの言葉は繰り返す

* タガログ語を含むフィリピン諸語の特徴に**重複** (ちょうふく、じゅうふく; 単語の一部または全体を繰り返す形態論的操作) がある。

- 日本語でも複数表現する手段として用いられる: ひとつと、やまやま、くにくに、むらむら
- しかし、タガログ語の重複は複雑で、さらに文法的な働きまでもっている。

* 語根の最初のCV (子音と母音) を繰り返すことで、名詞や疑問詞の複数形を形成することができる。

- bagay 「もの」	→	bagay-bagay 「もの (複数)」
magkapatid 「兄弟」	→	magka~kapatid 「兄弟 (3人以上)」
ano 「何」	→	ano~ano 「何 (複数)」
sino 「誰」	→	sino~sino 「誰 (複数)」
saan 「どこ」	→	saan~saan 「どこ (複数)」

* 語根の最初のCV (子音と母音) を繰り返すことで、動詞の未然相 (まだ起きていないこと) を表現できる。

- mag-basa 「読む」	→	mag-ba~basa 「読むだろう」
ma-tulog 「寝る」	→	ma-tu~tulog 「寝るだろう」
kun-in 「取る」	→	ku~kun-in 「取るだろう」
tulong-an 「助ける」	→	tu~tulong-an 「助けるだろう」
i-bigay 「与える」	→	i-bi~bigay 「与えるだろう」

* 語根の最初の2音節を繰り返すことで繰り返しを表現することができる。

- linggo 「週」	→	linggo~linggo 「毎週」
araw 「日」	→	araw~araw 「毎日」
umaga 「朝」	→	uma~umaga 「毎朝」
tanghali 「昼」	→	tangha~tanghali 「毎昼」
isa 「ひとつ」	→	isa~isa 「ひとつずつ」
baso 「コップ」	→	basu~baso 「コップずつ」

* 「語根の最初の2音節を繰り返すことで形容詞の意味を強調することができる。

- ang ganda 「美しい」	→	ang ganda~ganda 「とても美しい」
ang lakas 「強い」	→	ang lakas~lakas 「とても強い」
ang taas 「高い」	→	ang taas~taas 「とても高い」
ang talino 「頭がよい」	→	ang tali~talino 「とても頭がよい」

* 「語根の最初の2音節を繰り返すことで形容詞の意味を弱くすることができる。

- ma-ganda 「美しい」	→	ma-ganda~ganda 「ちょっと美しい」
ma-lakas 「強い」	→	ma-lakas~lakas 「ちょっと強い」
ma-taas 「高い」	→	ma-taas~taas 「ちょっと高い」
ma-talino 「頭がよい」	→	ma-tali~talino 「ちょっと頭がよい」

※ 略号一覧

AF-actor focus, ASP- aspect marker, CF-circumstantial focus, EXC-exclusive, GEN-genitive, INC-inclusive, LF-locative focus, LIN-linker, LOC-locative, NEG-negation, NOM-nominative, P-personal name and kinship term, PF-patient focus, PL-plural, RL-realis, SG- singular, ST-stative, 1-first person, 2-second person, 3-third person, "<"-infix

※ もっと知りたい人のために

- タガログ語についてもっと知りたい人は次の入門書が参考になります:
 - 大上正直/ジェニー・ヨシザワ (2013) 『世界の言語シリーズ6 フィリピン語』 大阪大学出版会
 - 大上正直 (2003) 『フィリピン語文法入門』 白水社